

タイトル： 『認知症カフェによって生まれた地域との繋がり』

キーワード

イベント
町会加入
多職種との出会い

キーワードについては必ず3つ記入の事！！

特養、養護、軽費、ケアハウス、デイ、小規模多機能、GH、居宅老健、その他 いずれかを記載

施設種別	デイ	施設名	デイサービスセンターかがやき
------	----	-----	----------------

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)		氏名	職種	備考
	①	佐々木 雅章	生活相談員兼介護職員	
	②	湊 梨香	生活相談員兼介護職員	
	③			
	④			
	⑤			

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	社会福祉法人
開設年月日	平成12年4月	所在市町村	室蘭市
市町村人口	84818 (4月現在) 人	65歳以上人口 (高齢化率)	31133 (H29.12現在) 人 (高齢化率 約36.4 (H29.12現在) %)
利用者定員数	37 人	利用者平均年齢	83.9 歳
職員数	21 人	職員数内訳	介護職 12名 看護職 3名
併設施設・事業	指定居宅介護支援事業所・認知症カフェ (市からの委託事業)		
施設のサービスの概要	通常規模型通所介護25名、認知症対応型通所介護12名、計37名定員のデイ。送迎、入浴、食事、機能訓練や各種行事を通して、通われている利用者様が笑顔で過ごされ、自立した在宅生活を送れるよう支援致しております。		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題 当事業所は開設以来18年が経過。その過程において、地域との繋がりは希薄でありました。地域包括ケアシステムを構築していく上で地理的にも重要な拠点とならなければならない施設にも関わらず、地域との『繋がり方』が見えず困惑。そこに平成28年4月認知症カフェを開設。現在2年が経過し地域とどういった『繋がり』が構築できたのか、またどういった取り組みが良かったのか、そしてこれからの課題や展望を検証してみました。</p> <p>②具体的な取り組み 平成28年4月室蘭市の委託事業として認知症カフェを開設。市からの委託料は、初年度330,000円 (毎月25,000円 初回月準備金+30,000円)。次年度より、300,000円 (毎月25,000円) 支給。開設に伴う居室環境整備 (ソファやバーカウンター、椅子やテーブル、フロアマット等) に約190,000円支出。毎月の費用負担は飲み物代の2千円程度。実施頻度は毎月第2・4金曜日11:00~15:30で実施。イベントは偶数月の第2金曜日に開催。 平成29年4月からは、イベント回数を増やし毎月第2金曜日に開催。(同時期に事業所として町会へ加入) ※イベント内容～専門職による講話 (管理栄養士・保健師・社会福祉士・臨床心理士)。専門家による講座 (警察・消防)。腰痛・膝痛・脳トレ体操 (柔道整復士・介護福祉士)。専門職による相談会 (認知症初期集中支援チーム・認知症地域推進員)。認知症サポーター養成講座 (昼の部・夜の部)。認知症キッズサポーター養成講座 (学校へ出張カフェ)。社会福祉協議会介護支援ボランティアとの交流会。徘徊探索模擬訓練 (当事業所周辺2町会。警察、包括、推進員、初期集中チーム等)。室蘭を語るイベント (昔の室蘭のスライドを見ながらMCと地域住民がセッション) 等。 ※町会活動～夏祭りの準備や片付け (幟設置や櫓解体等)、当日の手伝い等 (焼きそば・焼鳥・子供神輿・流しそめん・餅まき)。春・秋の町会清掃参加。</p>	<p>③活動の成果と評価 地域との繋がりができたのは、『認知症カフェ主催の多岐に渡るイベント開催』、『町会加入による地域住民との顔の見える関係性作り』が重要と感じました。現在では町会の方から認知症サポーター養成講座の開催依頼や町会大行事の夏祭りの参加も依頼されています。また多岐に渡るイベント開催で他事業所多職種との関係性も構築できました。それが事業所運営において利用者実人員のupや困難ケースの相談・介入の連携強化もできています。認知症カフェ開設当初は手探りながら認知症を患う家族の相談窓口になればと始めた事業ですが、行政、地域住民、学校、他事業所多職種と関わり信頼関係を構築できたことで、この地域の福祉拠点としてのスタートができたのではと感じております。</p> <p>④今後の課題 今後の課題としては、当事業所周辺の市営AP10棟くらいある (認知症独居高齢者等多く居住している) 現状で、認知症の方が行方不明になる事案も数件あり、昨年徘徊探索模擬訓練を実施したのですが、実際事案が発生した際の、捜索班の分担が明確にされておらず効率的且つ確実な連絡体制に不備がある現状です。ここをAPを跨ぐ2町会と協働しフォーマットの作成を進めたいと考えております。さらにもう1点、個人的な見解とし当該地域の認知症施策を進めるうえで認知症を患う方の理解や対応方法を認知症サポーター養成講座等で進めてきましたが、対象が『成人』ということです。現状37%近い高齢化率は年々高上りする傾向にあるのは明白で支える世代が少なくなるということです。そこで『若年層』への認知症という病気の理解、対応方法の知識の享受が重要と考えます。地域全体でこの街を作ってきた先人達のサポートをする！そして若いうちからこのような病気の特徴を知ることのできる将来介護職に興味を持つ子も少なくはないと思います。そこで前年度から、学校で認知症キッズサポーター養成講座に力を入れております。しかし校長会への働きかけも行ってきましたが協力して頂ける学校が少ないのが現状です。ここをもっと現場レベルの教師との関係性を作り上げ普及させたいと考えております。</p> <p>⑤参考資料など 特にありません。</p>
--	---

※「応募用紙」とともにメールにて【5月28日(月)】までにご提出ください→ roushikyo@dosyakyo.or.jp まで。